



2022年2月10日

各位

会社名 藤田観光株式会社  
代表者名 代表取締役兼社長執行役員 伊勢 宜弘  
(コード番号: 9722 東証第一部)  
問合せ先 取締役企画本部管掌 野崎 浩之  
(TEL (03)5981-7723)

## 通期連結業績及び個別業績の前期実績との差異、並びに剰余金の配当に関するお知らせ

通期連結業績及び個別業績につきまして、前期実績との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、本日開催の取締役会において、2021年12月31日を基準日とする普通株式に係る剰余金の配当、優先株式に係る剰余金の配当につきまして、下記のとおり2022年3月29日開催予定の第89期定時株主総会に付議することを決議いたしましたのであわせてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 前期連結実績との差異について

(1) 2021年12月期 通期連結実績と前期連結実績との差異 (2021年1月1日～2021年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 26,648	百万円 △20,611	百万円 △20,930	百万円 △22,427	円 銭 △1,871.94
当期実績 (B)	28,433	△15,822	△16,542	12,675	1,057.69
増減額 (B-A)	1,785	4,789	4,388	35,103	2,929.62
増減率 ( % )	6.7%	—	—	—	—

#### (2) 差異の理由

当連結会計年度は、断続的に発出される緊急事態宣言に伴い、宿泊や飲食等の自粛が継続する厳しい経営環境が続きました。長期化するコロナ禍で悪化した財務状況の改善を喫緊の課題とし、資産売却や優先株式発行により資本・資金を調達するとともに、早期の収益回復に向けて、構造改革推進による営業固定費の圧縮や高付加価値商品の造成等に取り組んでまいりました。

これらの結果、当社グループ全体の売上高は前期比1,785百万円増収の28,433百万円、営業損失は前期比4,789百万円改善の15,822百万円となりました。経常損失は前期比4,388百万円改善の16,542百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、資産売却等による特別利益を計上した結果、前期比35,103百万円増益の12,675百万円となりました。

なお、詳細につきましては、本日公表の「2021年12月期決算短信〔日本基準〕(連結)」をご覧ください。

## 2. 前期個別実績との差異について

(1) 2021年12月期 通期個別実績と前期個別実績との差異 (2021年1月1日～2021年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 18,310	百万円 △14,568	百万円 △13,115	百万円 △21,156	円 銭 △1,764.97
当期実績 (B)	20,636	△10,855	△11,456	12,498	1,042.73
増減額 (B-A)	2,325	3,712	1,659	33,654	2,807.70
増減率 (%)	12.7%	—	—	—	—

### (2) 差異の理由

当事業年度において、連結実績と概ね同様の理由により前期個別実績との差異が生じました。

## 3. 剰余金の配当

### (1) 配当の内容

<普通株式>

	決定額	直近の配当予想 (2021年2月12日公表)	(ご参考) 前期実績 (2020年12月期末)
基準日	2021年12月31日	同左	2020年12月31日
1株当たり配当金	0円00銭	未定	0円00銭
配当金総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

<A種優先株式>

	決定額	直近の配当予想 (2021年11月9日公表)	(ご参考) 前期実績 (2020年12月期末)
基準日	2021年12月31日	同左	—
1株当たり配当金	1,041,095円89銭	未定	—
配当金総額	156,164,383円	—	—
効力発生日	2022年3月30日	—	—
配当原資	その他資本剰余金	—	—

### (2) 理由

当期の普通株式に係る配当につきましては、当社を取り巻く経営環境や業績動向、今後のコロナ禍による財務リスクへの備えなどを総合的に勘案した結果、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

なお、2021年9月に第三者割当により発行した種類株式に係る配当につきましては、発行時に定められた種類株式発行要項に基づき、1株につき1,041,095円89銭を予定しております。

以上